

平成26年4月11日  
受信環境クリーン中央協議会

## 電波障害防止に関する功労者の表彰について

— 個人5件に対し —

受信環境クリーン中央協議会（会長：竹田義行 一般財団法人情報通信振興会理事長）は、電波障害防止に関し、顕著な功労のあった次の個人に対して表彰を行うこととしました。

なお、表彰式は、来る4月15日（火）午後5時15分からKKRホテル東京「孔雀の間」で行う予定です。

【個人】

(順不同、敬称略)

氏名	職業	実績の概要
くろせ のぶお 黒瀬 信夫	(株)NHKアイテック	昭和41年にNHKに入局後、約半世紀に亘って、放送受信技術業務に携わり、パルス雑音、ブースター発振等の電波障害の未然防止と原因究明による改善対策の実施などにより、受信環境改善に大きく貢献した。また、建造物による電波障害では、NHKが考案した障害予測手法の早期普及・定着に向けて、講習会を開催するとともに、講師として全国各地で技術者の育成に尽力した。さらに、建造物障害の調査、原因判定に威力を発揮するPDUR計の開発にも大きく貢献した。加えて、「雑音防止協議会」の時代から現在まで、福島県、岩手県における地域連絡会事務局及び宮城県における協議会幹事を務めるなど、長年に亘って本協議会の円滑な運営、活動の推進に大きく寄与した。
みつおか ともひろ 密岡 智浩	日本電設工業(株) 東北支店 工務部 情報通信グループ 課長代理	平成18年4月から平成25年7月まで、地上デジタル放送への移行のため、東北新幹線の設備等による受信障害共聴施設（福島、宮城、岩手県）の106組合、約7,000世帯を対象に、地上デジタル放送の受信障害範囲を特定する基礎調査を行ったほか、既設共聴施設加入者に対して、土日、昼夜を問わず地上デジタル放送に対する国の方針や改修方式等を丁寧に説明するなど現場責任者として指揮を執り、地上デジタル放送の普及及び受信障害対応に貢献した。また、東日本大震災による福島原発事故により、ホットスポットと呼ばれる放射線量の高い地域における共聴施設撤去工事では、撤去した同軸ケーブル等が高い放射線量の値であったので、処分場で受け入れ可能な値になるまで高圧洗浄等を行い、安全かつ円滑な地上デジタル放送への移行に貢献した。
もとむら ふみとし 本村 文利	昭和電線ケーブルシステム(株) 通信システム営業部 主幹	昭和50年に昭和電線電纜(株)（現 昭和電線ケーブルシステム(株)）に入社以来テレビ受信障害改善対策工事や都市型ケーブルテレビの設計施工に携わった。平成12年からは日本CATV技術協会でも主に高速道路や鉄道の高架によるテレビ電波障害改善対策の調査・施工に関わり、平成17年からは関東支部幹事（技術部会長）として、各委員会・部会等を通じてテレビ電波障害改善の普及・向上に長年に亘って大きく貢献した。

<p>いわせ いわお 岩瀬 巖</p>	<p>元NHK職員</p>	<p>昭和36年に日本放送協会名古屋放送局へ入局以降、放送受信環境維持と改善の最前線で活躍した。特に、受信障害調査に精力的に取り組み、電気雑音による電波障害の解消を図るとともに自治体への建築指導要領や条例制定への働きかけを積極的に行うなど、電波障害の未然防止につとめた。また、平成19年からはNHK関連団体の技術アドバイザーとして、地上デジタル放送への移行に向けた家電流通業界への技術支援に取り組むとともに、受信環境クリーン月間では受信相談コーナーの説明員として参画するなど、アナログ放送時代及びデジタル放送時代の良好な受信環境の定着に大きく貢献した。</p>
<p>ながの たかし 永野 隆</p>	<p>加古川市立神吉中学校教諭</p>	<p>電波障害防止に関する深い理解と重要性を認識し、永年に亘り、中学校の美術担当教諭として「受信環境クリーン図案コンクール」に熱心に取り組み、卓越した指導力により生徒の応募した作品が、これまで総務大臣賞、文部科学大臣奨励賞、日本放送協会会長賞、日本民間放送連盟会長賞、受信環境クリーン中央協議会会長賞などを受賞している。また、近畿受信環境クリーン協議会においても最優秀賞、優秀賞などを毎年受賞しており、美術教育を通じて電波障害防止に関する知識の普及啓発に多大な貢献をした。</p>

<参 考>

受信環境クリーン中央協議会では、本件表彰を昭和34年（1959）から毎年実施しており、今回で56回目となります。

連絡先：受信環境クリーン中央協議会 事務局  
（一般財団法人情報通信振興会内）栗原  
（電話03-3940-3981）